

ネパールと中国の国境で土石流

7月の熊本での地震の自然災害に続いて、千葉や北陸で豪雨による被害が出ています。地震の被害から復興の途上にある地域もあるようで、心よりお見舞いを申し上げます。



さらに、8月26日には、ネパールと中国チベット自治区の国境地帯で、大規模な鉄砲水と土石流が発生し、亡くなられた方は1000人超、行方不明者は4000人を超えているそうです。映像では、巨大な国境の建物があつという間に濁流に飲み込まれて跡形もなくなっている様子が映し出されました。ニュース報道によると標高5000メートル付近の氷河が崩

壊したことが原因とされています。一刻も早い生存者の救出と被害に遭われた方への支援を願います。



日本国内の豪雨災害も、ネパールの氷河の崩壊も、地球の温暖化が要因と考えられます。これまで経験したことのない高温に、地球が悲鳴をあげているのだと思います。戦争や国同士の喧嘩をしている場合ではありません。科学や経済を、武器ではなく持続可能な地球のために使っていただきたいのです。



ところで、土石流が近づいているのに、その様子をスマホで撮影したり、ゆっくり避難したりする人がたくさんおられます。これは正常化バイアスと言って、予期しないことが起こると、経験による的確な判断をすることができないため、「そんなことが起こるはずがない」「多分大丈夫だろう」という思考が働くのだそうです。そうならないために、普段から避難のタイミングや避難の方法を考えておくことが大切なのだとか。



私たちにも、必ず訪れる一大事。その時に慌てないよう、共に寄り添い、お互いに助け合って一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

(住職)

9月(長月)

五日(土)	僧侶研修(教令講)
六日(日)	僧侶研修(実践運動)
二〇日(日)	お講 一一時
二三日(祝)	お彼岸
二六日(土)	山科別院念仏奉仕
二七日(日)	南組追悼法要

くらしの仏教用語

浮世(うきよ)

友達と食事に行く前とか、旅行に行く時とか、楽しいことの前にはウキウキした気持ちになりますね。浮世とは、辛いことを忘れてウキウキと享樂的に生きるという考えから「浮世」という漢字を使うようになったのだそうですが、もともとは私たちが暮らすこの世の中や、はかなく移り変わる人生のことを表す「憂き世(うきよ)」という字を書いていたそうです。「憂き」は、心を悩ますこと、つらく苦しいこと。「浮世」と「憂き世」。同じ言葉なのにまったく逆の意味になってしまふのは不思議です。とはいえ「浮世」も「憂き世」も、どちらも「この世」が自分ではどうすることもできない諸行無常であることを教えてくれます。

憂きことを忘れてビールを飲んで、どんな騒ぎをして浮かれても、酔いが覚めると、また元通り。なんともはかないですね。

9月23日は秋のお彼岸



朝6時、出勤前に本堂へ行くと、朝日がガラス障子を通して優しく差し込んでいました。夏は6時でも熱せられて汗が噴き出す暑さ、冬はまだ真暗で凍えるような寒さの本堂ですが、これからはとても気持ちよくお勤めをすることができそうです。お彼岸が近づくと、ちようど東から太陽が昇るため、晴れた朝には本堂の奥の方まで光が届いてとても美しいです。お仏壇はお浄土の姿を表しています。阿弥陀様が微笑んでおられる前で、「カーン」と金を叩き、「がーごーんちようせいがいん」とお勤めするのが、極上の朝のルーティンです。

もうすぐお彼岸。亡くなられた方々を偲びつつ手を合わせましょう。

9月の掃除当番は、堀善弘さんです。お世話様ですがよろしく願います。たします。



清浄光はインターネットでもお読みいただけます

世のなか 安穏なれ



世界お寺めぐり

日光山輪王寺（栃木県）

日光といえば、「見ざる 言わざる、聞かざる」の猿の彫刻で知られている東照宮が思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。造営には甲良町出身の甲良豊後守宗廣（こうらぶんごのかみむねひろ）が大棟梁として指揮をとったとされていますね。

東照宮がある山域一帯は「日光山（にっこうざん）」と呼ばれており、東照宮が建立されるよりもずっと古くから信仰の山として、たくさんの僧侶が回峰行の修行に励んでいたそう

で、山域のお寺をひっくるめて輪王寺（りんのおうじ）と呼ばれています。明治時代になって神仏分離令によって

神社とお寺に分けられましたが、それまでは東照宮も輪王寺も一つの境内と考えられていたのだとか。

輪王寺は、比叡山天台宗のお寺で、徳川家光の寄進で建立された本堂は、東日本最大の木造建築だそうです。朱色に塗られた堂内には千手観音、阿彌陀如来、馬頭観音の大きな仏様が安置されていましたので、静かに手を合わせることもあって、国内だけでなく海外からもたくさんの方が参拝に訪れておられました。

それにしても、参道の巨大な杉並木の荘厳さには圧倒されます。そして広いこと。お参りしたのが暑い日だったので汗びっしょりになってふうふう言いながら境内を巡りました。

住職の星空案内

暑かった夏、ようやく朝晩は少し過ごしやすくなってきました。賑やかだった夏の星座たちも西に傾き、東からは早くも秋の星座が昇ってきています。そんな秋の星空で絶対に見逃せないのが今年の10月号でも紹介したアンドロメダ銀河です。渦を巻くその形は美しく、うっとり見惚れてしまいます。銀河鉄道999（スリーナイン）というSFアニメで、主人公の鉄郎とメーテルが銀河鉄道の汽車に乗って旅をする終着駅がアンドロメダ銀河にある惑星でした。テレビでは1年で到着しましたが、実際には250万光年も離れていてロケットで500億年、新幹線では9兆年かかります。到着する頃には、とっくに地球は無くなっているでしょう。なんだか不思議ですね。



くいずクイズ QUIZ

彼岸花とコスモスの花がたくさん咲いています。さて、彼岸花とコスモスの花、それぞれ何個咲いているでしょうか？



先月号の答え



浄土真宗本願寺派 補陀落山 覚浄寺

清浄光はインターネットでご覧いただけます。<https://www.kakujoji.com>